

令和6年度の活動報告について

令和7年3月14日

国土交通省 霞ヶ浦河川事務所

◆ 委員の活動状況

① 霞ヶ浦環境科学センター

● 令和6年度 第2回霞ヶ浦自然観察会

- ・ 実施日時：令和6年6月15日（土）9:30～12:00
- ・ 内 容：H,I区間にてたも網や投網による魚獲り
- ・ 参加人数：54名
- ・ 主 催：霞ヶ浦環境科学センター



● 令和6年度 第6回霞ヶ浦自然観察会

- ・ 実施日時：令和6年10月19日（土）9:30～12:30
- ・ 内 容：H区間で試験施工の様子と植物の観察会
- ・ 参加人数：29名
- ・ 主 催：霞ヶ浦環境科学センター



◆ 委員の活動状況

① 霞ヶ浦環境科学センター

● 霞ヶ浦魚類定点調査

- ・ 内 容：A・B・G・H・I区間にて魚類調査
- ・ 参加人数：48名
- ・ 主 催：霞ヶ浦環境科学センター



② 霞ヶ浦湖岸植物同好会

活動年月日	参加者
R6-4-10	小僧：栗原先生、木村(職)、安江川正、木下、杉山、栗山、二階堂、ビクター・赤井計 9名
5-8	栗原先生、会員 4、赤井計 6名
6-12	小僧：栗原先生、会員 4、土井計 7名
7-10	〃
8-7	小僧：栗原先生、会員 3計 5名
9-11(18)	栗原先生、会員 4、5名(坂本正樹)小僧先生、会員 4計 3名
10-9(11)	(自然観察会)兄・親、友部正保計 4名
11-13	小僧：栗原先生、会員 4、赤井計 7名
12-11	小僧：栗原先生、会員 4、山田計 7名
R7-1-8	小僧：栗原先生、会員 4、山田、赤井計 8名
2-12(19)	定例会参加計 7名(仮・活動期) 5名
3-12	9:00~
3-19	同好会打合せ

② 霞ヶ浦湖岸植物同好会

令和 6(2024)年度前期「霞ヶ浦湖岸植物定点観察」活動報告

掘削地周囲に出現した **ヤマトハギ** や **ウヰットランド** の **ヒメコウガイゼキショウ** などを観察。 **ヤマトハギ** 生育地で保全活動を実施。

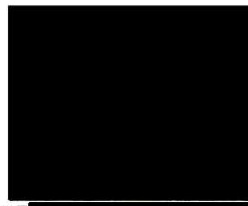
月/日	ABEFGHIJKL 区観察概況 (I B・II:絶滅危惧ⅠB類・河Ⅱ類、準:準絶滅危惧、特外:特定外来生物)
R6 4/10	ジャヤナギとタチヤナギが展葉と共に開花し、 ヤマトハギ が黄色い花序を広げていた。 ヤマトハギ が花穂を付け、 ヤマトハギ が 5 年ぶりに出現した。カワヤナギとオノエナギで柳絮が見られた。 ヤマトハギ は見つからなかった。枯れて浮いているように見えたナガエツルノゲイトウ(特外)の密集した茎から新葉が出た。
5/08	オオヨシキリが鳴き始め、 ヤマトハギ とノイバラが満開だった。 ヤマトハギ ミコシガヤ、アゼナルコが出穂、ウキヤガラが開花した。オニナルコスグは果穂が膨らんだ。掘削地周囲で コウキヤガラ とミズハコベが出現した。マルバヤナギが柳絮を飛ばし、 ヤマトハギ も果実散布中だった。アレチウリ(特外)の幼苗とナガエツルノゲイトウの茎が見られた。
6/12	ヤマトハギ やオオイヌタデに花序がオニグルミに実が付いた。整地後のウェットランドで ヤマトハギ イグサ、メアゼンツキなどと新出種のヒメコウガイゼキショウやイワヒメワラビが出現した。掘削地周囲には ヤマトハギ などが出た。ミズヒマワリ(特外)に茎が、オオフサモ(特外)に花が付いた。
7/10	法面で ヤマトハギ が、低地で エゾミソハギ とシロネが花盛りだった。掘削地周囲で群生するヒメガマ、ヌマガヤツリ、タマガヤツリ、ヒロハコウガイゼキショウが花序を付けた。ナガエツルノゲイトウが再生地の内部まで侵入して花を付けていた。アレチウリが B 区低地と裏法の広範囲で繁殖していた。水際で大きな株になっているミズヒマワリが開花した。
8/07	ヨシが出穂しシロバナサクラタデが開花した。G 区浅瀬に ヤマトハギ が多数出現し花穂を付けた。漂着したナガエツルノゲイトウが砂地で茎を這わせ生育地を拡大中だった。掘削地周囲でカンガレイ、 ヤマトハギ コアゼガヤツリ、新出種ヒメアザミカアゼナを確認した。J 区法面に刈り取られたナガエツルノゲイトウが積み重なっていた。
9/11	暑い日が続く中、ヤマハギ、ツルマメ、アキノゲシなどが開花し、シロバナサクラタデやセンニンソウが満開だった。掘削地東側に ヤマトハギ が多数出現し花序を付けた。大型になったクサネムが多く節果を付けていた。 ナガエツルノゲイトウ の大きな群生が見られた。 ヤマトハギ 生育地でセイタカアワダチソウの抜き取り作業をした。



4月
改修工事等で減少し準絶滅危惧



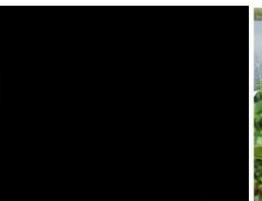
5月**コウキヤガラ**(カヤツリグサ科)多年草
斜上する茎の基部に頭状の花序



6月
長い葉柄に葉身が楕円形の陸生形が出現



7月**エゾミソハギ**(ミソハギ科)多年草
葉の基部が茎を抱き寄付属片が直立



8月
攪乱地に神出鬼没の絶滅危惧種



9月**ナガエツルノゲイトウ**(ヒコ科)多年草
繁殖力が驚異的な南米原産の特定外来生物

霞ヶ浦湖岸植物同好会

令和 6(2024)年度後期「霞ヶ浦湖岸植物定点観察」活動報告

掘削地周囲のゴキツル、**ヤマトハギ** などの多様な植生を観察。外来生物の抜き取り等、保全活動をした。

月/日	ABEFGHIJKL 区観察概況 (II:絶滅危惧Ⅱ類、準:準絶滅危惧、特外:特定外来生物)
R6 10/09, 11	ヤマトハギ やオギの穂が出た。サクラタデ、 ヤマトハギ などが花を付け、多種多様なイヌタデ属の植物が見られた。ヤブマメヤ ゴキツル やアレチウリ(特外)には花と共に実が見られた。H 区で増えたマツカサスキが果実散布中だった。I 区のナガエツルノゲイトウ(特外)の新たな侵入地に生態系被害防止重点対策種のアマゾンチカガミも出現していた。自然観察会の下見を兼ねて H 区掘削地周囲の観察路を整備した。
11/13	オギの果穂がたなびき、カマツカやノイバラなどの赤い実、色とりどりのノドウの実、アキノレの翼果を観察した。ヌルデは実と共に紅葉が見られた。ミソバやヤナギタデなども結実し紅葉した。黄葉したサヤナグサには僅かに小穂が残っていた。オオバナミズキンバイ(特外)が生育している運田周辺を観察し、合わせて 5 枚の休耕田に繁殖していることを確認した。ナガエツルノゲイトウ(特外)などの除去活動に参加し、 ヤマトハギ の生育を確認した。
12/11	オオフサモ (特外)が水中越冬のため横に倒れ、ネムノキなどで落葉が進んでいた。低地ではヒメガマなどの枯れ葉が目立ち熟した果実を盛んに散布していた。1 年草のイヌホオズキやイガガヤツリなどはまだ花序を付け、できるだけ多くの実を結ぼうとしていた。オオバジラミの実生が緑葉を広げ、陽だまりでナズナやホトケノザが花を付けていた。ナガエツルノゲイトウ(特外)の中空の切れ茎がテラス状の群生周囲で多数浮いているのが見られた。
R7 1/08	オニグルミなどの裸木とヨシなどの冬枯れの景色が広がっていた。 ヤマトハギ にはまだ緑色の葉が残るがカワヤナギには早くも芽眼を脱いだ銀色の蕾が見られた。常緑のマングロウやサネカズラに赤い実が見られ、枯れた ヤマトハギ やアレチウリ(特外)などにもまだ実が残っていた。メマツヨイグサやスイバ・ギンギン類などのロゼットが見られ、 ヤマトハギ は越冬用の軸芽を作っていた。
2/12, 19	立ち枯れのヨシの冬景色が広がり、様々なヤナギ類の樹形とマングロウやゴンズイなど特徴のある樹皮や冬芽・葉痕などが見られた。水中のミズヒマワリ(特外)に緑色の茎と葉が見られたがナガエツルノゲイトウ(特外)は目立たなかった。結氷の運田で オオバナミズキンバイ (特外)は地上部が枯れたが地下茎に新芽が見られた。 ヤマトハギ 生育地でセイタカアワダチソウ等の抜き取り、 ヤマトハギ 生育地でマルバヤナギの落枝を集める等、観察路の整備をした。
3/12	三寒四温の湖畔でタチヤナギとジャヤナギの冬芽が動き出し、 オノエナギ などが展葉前に開花する仲間の花が見られた。整地後の低地でオオナモミが多数の実を付け、立ち枯れの茎が林立するオオイヌタデの周囲には実生が密生していた。道端で茎を斜上させ蕾を付けたハナイバナを見つけた。タネツケバナ類やノギシ類が花や実を付け、フササソウやヤブツバキが満開だった。 ヤマトハギ にはまだ葉が残り黒い豆を付けた赤褐色の莢が見られた。



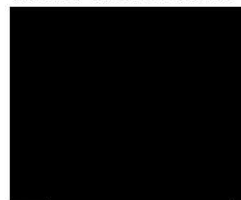
10月**ゴキツル**(ウリ科)毒性 1 年草
突起のある莢果には 2 個の種子が入る



11月
好適な浅瀬が減少し準絶滅危惧Ⅱ類



12月**オオバナミズキンバイ**(アリトウグサ科)多年草
水中で越冬する南米原産の特定外来生物



1月
攪乱依存種で国・県準絶滅危惧



2月**オオバナミズキンバイ**(アカバナ科)多年草
南米・北米南部原産の特定外来植物



3月**オノエナギ**左右? (ヤナギ科)落葉樹
北地に普通の種で長い葉には光沢がある

霞ヶ浦湖岸植物同好会

◆ 委員の活動状況

③ B区間の草刈り活動報告

●霞ヶ浦環境科学センター

- ・実施日：令和7年1月31日
- ・参加人数：7名



◆ 協議会の活動報告

① 環境管理活動 特定外来生物（植物）除去活動

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生地区 環境管理活動 特定外来生物の除去を実施しました

■実施概要

日 時：令和6年11月19日（火）9:30～12:30
内 容：H 区間・B区間の特定外来生物（ナガエツルノゲイトウ・ミズヒマワリ等）の除去
参加人数：37名
参 加 者：霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会
協議会会長、霞ヶ浦市民協会、霞ヶ浦湖岸植物同好会、霞ヶ浦グラウンドワーク、
茨城県 霞ヶ浦環境科学センター、茨城県 県民生活環境部環境対策課、
土浦市 環境保全課、かすみがうら市 市民部環境保全課、
水資源機構利根川下流総合管理所、国土交通省 霞ヶ浦河川事務所
ミュージアムパーク茨城県自然博物館、農研機構（略称）

■ 特定外来生物の除去および清掃活動の目的

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生地区では、特定外来生物の侵入・拡大が問題となっています。これらは在来植物に悪影響を与える可能性があります。昨年度は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館と農研機構（略称）の協力を得て、オオバナミズキンバイ等の除去活動を行いました。その後H区間では、試験施工を行い、オオバナミズキンバイについては、生育の抑制効果が確認されていますが、ナガエツルノゲイトウ等は依然として繁殖しております。
今年度は、H区間の試験施工箇所やB区間に繁殖している、ナガエツルノゲイトウ等の除去を行いました。また、今年度もミュージアムパーク茨城県自然博物館と農研機構（略称）の協力を得て活動を実施いたしました。

■活動範囲

・H区間
1班,2班 : ナガエツルノゲイトウ等の除去
3班 : ミズヒマワリ等の除去
・B区間
4班 : ナガエツルノゲイトウ等の除去



■実施結果

- ◆参加者37名が4班に分かれて、約2時間30分かけて特定外来生物の除去作業を行いました。
- ◆除去した、ナガエツルノゲイトウ等を入れた土のう袋の総重量は約600kg（約200袋）でした。それらは、河川管理区域内の集積場所（※上図参照）に集め、中身が飛散しないよう大型土のう袋に詰めて厳重に口を閉じ、しばらくの間ブルーシートで覆い保管して枯死させます。枯死後は、燃やせるゴミとして焼却処分いたします。

■環境管理活動のようす



活動当日は晴天の中、37名が参加いたしました。活動範囲は、過年度の活動で抑制効果が確認された範囲や試験施工箇所を中心として約2時間30分行いました。



ナガエツルノゲイトウやミズヒマワリは、根や茎の断片から再生する特徴があり、断片を残さないように除去する必要があります。



活動中は、根や茎の断片を残さないように注意し、土のう袋に入れて除去をしました。



水中に飛散した根や茎の断片も残さず、たも網で掬い取りました。



除去したナガエツルノゲイトウ等は、土のう袋に詰め、軽トラックでB区間の集積場所に集めました。



活動後、計測をした結果、除去したナガエツルノゲイトウ等の総重量は約600kg（約200袋）でした。



飛散しないよう大型土のう袋に詰め、ブルーシートで覆い、しばらく保管し、枯死した後に処分します。

■除去作業のピフォーアフター



皆様ご協力
ありがとうございました。



◆ 協議会の活動報告

② 環境管理活動 草刈り活動

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生地区 環境管理活動 草刈り活動を実施いたしました

■ 実施概要

期 間：令和7年1月6日(月)～2月2日(日)
場 所：B区間水際部(下記画像参照)
参 加 者：霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会
【福島会長、霞ヶ浦環境科学センター】

■ 草刈り活動の目的

これまで自然再生地の環境管理活動の一環として、B区間を対象に、令和4年より毎年1月に水際部の草刈りを行ってまいりました。その結果、水際に近づきやすくなり、釣り客が利用しやすくなったほか、草地環境を好む鳥類等が飛来し利用する効果も確認されました。また、草刈り後のモニタリング調査では、ヨシ群落徐徐に拡大し、セイタカアワダチソウ群落が縮小していく傾向も確認されています。

そこで、本年もヨシ原や景観の保全および水辺へのアプローチの確保等の観点から、B区間の草刈りを実施いたしました。

■ 活動範囲

◆ 草刈り範囲：B区間水際部 約200mで実施いたしました。
※ゴミは土浦市のルールに従い分別しました。



■ 草刈り活動のようす

活動については、設定した活動期間中に、協議会委員の皆様のご都合に合わせてご参加頂くことといたしました。1月31日(金)霞ヶ浦環境科学センターの皆様にご協力をいただきました。また、事務局活動日(霞ヶ浦河川事務所及び建設環境研究所)の2月12日(水)には、福島会長にご協力いただきました。



活動期間中、協議会委員の皆様が刈払機を持ち寄り、ご協力いただきました。



ヨシは一度刈り取ったあと、草丈が高いものや枯枝の鋭利な切り口で怪我をしないように再度、刈り直しました。



刈草はレーキやほうきを使用し、集めて、整理しました。



落ちていた食品の袋等のゴミも一緒に回収しました。
ゴミは土浦市の分別に従って回収しました。



作業中にハクセキレイやツグミ等の鳥類が飛来し、草刈りした箇所を環境を利用する様子が観察されました。

■ 実施結果

草刈りを行うことにより、ヨシの枯枝等が除去され、水辺へのアプローチや景観が確保されました。今後、釣り客や生物等の利活用の促進が期待されます。
この度は、福島会長、霞ヶ浦環境科学センターの皆様、ご協力いただきありがとうございました。

◆ 草刈り前



◆ 草刈り後



ご協力いただいた皆様
ありがとうございました。